



穴粟市一宮町につたわる抜山伝説

1976(昭和51)年9月13日、
台風17号のえいきょうで、穴粟市一宮町はそう雨
りょうが637mmにもなっていました。
そのため一宮町福知地区、生栖地区に
またがる「抜山」の一部が
山くずれを起こし、
一家6人が生きうめに
なりました。



すぐに消ぼうだんや住みんが
かけつけて、きゅう出作業を
行い、3人をきゅう出しまし
た。のこる3人のそうさくを
ひっ死て行っていました。

ここらはな、
昔に大きな山くずれが
あってな、それから
「抜山」とよばれる
ようになったんよ。



もっと大きな
山くずれが
起こるかも…

きゅう出作業を見守っていた地いきの
人たちは、昔からこの地区につたわる
「抜山伝説」のことが、とても気にな
っていました。

だいじょうぶ
かな…



おばあちゃんか
昔「山が抜けた」つ
て言ってたなあ…



そのとき、山ちよう
近くの木が数本
たおれました。



山が
抜けるぞ！
はよにげ〜！

あぶない！
にげろ！！



学校のスピーカーからの
よびかけや、住みんの声
かけて、みんなはいっせいに
ひなんしました。

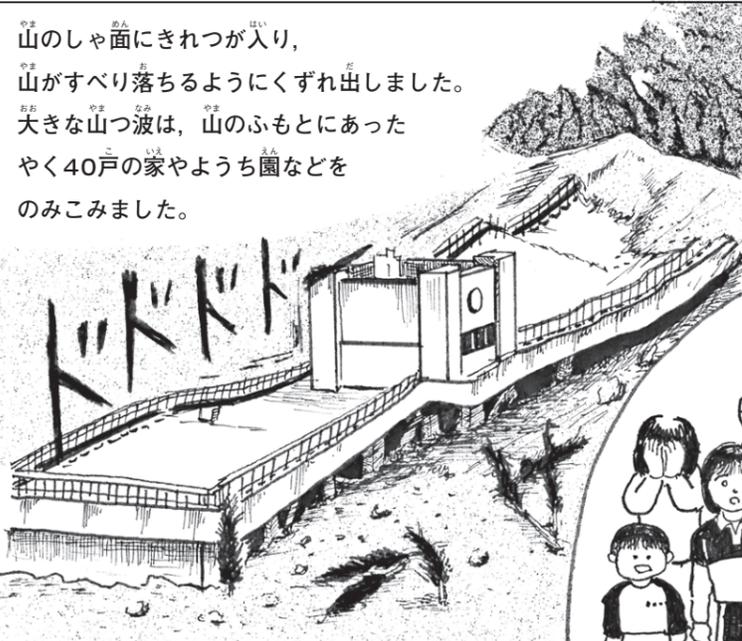


はよにげ！
いそげ！
やっぱり
抜けた！

きけんです
早くにげてください！



山のしゃ面にきれつが入り、
山がすべり落ちるようにくずれ出しました。
大きな山つ波は、山のふもとにあった
やく40戸の家やようち園などを
のみこみました。



3階だての下三方小学校は
やく60mほどおし流され、
校しゃのほとんどが土にうも
れてしまいました。

あ、あ……



(写真提供 穴粟市)



(写真提供 神戸新聞社)



住みんが抜山伝説を知っていたことが
命を守りました。
下三方小学校では今でも山つ波集會を
開き、伝説を語りついでいます。

↑ 1976年9月14日 神戸新聞